


活動タイトル	ひとり親家庭も集える夜間の多世代型子育てサロンの開催		団体名	NPO法人ねっこぼこのいえ	
1年間の活動 (アウトプット)の 目標 (事業全体)	<p>【夜間の多世代型子育てサロンの開催】</p> <p>①多世代型子育てサロン (居場所機能) :【実施回数 7回】 夜間帯、利用料無料、予約なしで誰でも集える多世代が交流できる場を提供</p> <p>②低額の食事提供 :【実施回数 7回】 サロン開催時、夕食を低額で提供し参加者やスタッフと一緒に食事することが出来る。</p> <p>③学習支援 : ・ボランティアによる無料の学習支援【実施回数 7回】</p> <p>④相談援助と情報提供 : サロン開催時、スタッフに気軽に相談でき、情報を提供し援助を行う【都度】</p> <p>⑤講座の開催 : ひとり親支援に関する講座の開催【実施回数 1回】</p>			<p>■活動風景</p>  <p>自治体職員の視察</p>	
■活動報告		■1年間の目標に対する達成状況			
<p>①多世代型子育てサロン (居場所機能)</p> <p>2018年9月～2019年3月の第3金曜日に多世代型夜の子育てサロンを全7回実施した。【参加延べ人数318名 (新規参加人数21名含む) 、平均参加人数45名】これまでの活動実績が認められ、2019年4月より、札幌市の補助事業「地域子育て支援拠点事業 (ひろば型) 」として指定され活動を継続して実施している。</p> <p>②低額の食事提供 (全7回)</p> <p>毎回カレーを20食限定で提供し、ほぼ毎回完売した。</p> <p>③学習支援 (全7回)</p> <p>参加人数は、延べ数11名、平均参加人数は1.5名であった。学習ボランティアに子どもが進学の相談をしていた。</p> <p>④相談援助、情報提供 毎回都度実施した。</p> <p>⑤講座</p> <p>2月に「こどもの教育の備えと、ライフプランについて」という講座をシングルマザーフォーラム北海道代表の平井照枝さんに講師に来ていただき、6名が参加した。</p>		<p>①ひとり親家庭の親の参加が4組ありピーターになって、交流を継続しており、目標は達成されたといえる。</p> <p>②低額の食事提供を7回実施した。</p> <p>③学習支援は1名がピーターになったが、目標の3名以上がピーターになるまでにはいはず目標達成には届かなかった。</p> <p>④情報提供と相談援助は都度実施した。ひとり親にこれからの人からの相談があり、スタッフが聞き取り、情報提供や別日にも対応するなど、目標が達成されたといえる。</p> <p>⑤ひとり親支援に関する講座を当初予定どおり開催した。</p>			
■1年間の活動のまとめ		■事業を通じて得られたノウハウ	■実施した人材育成策	■活動成果のアピールポイント (自由記入)	
<p>○前年度から引き続き助成していただき、全国的にも珍しい夜間の多世代型子育てサロンを開催し、自治体の担当職員が視察に来訪し活動の説明と前年度、助成金を活用して実施したニーズ調査の結果を提出し、地域子育て支援拠点事業 (札幌市の補助事業) として実施することを提案した。</p> <p>○2019年1月に、自治体職員から、検討した結果、補助事業として認めるという連絡を受け、2019年4月から市の補助事業を受けて活動を継続実施している。当初の、市の補助事業として認めてもらい事業を継続させるという目標を達成した。</p> <p>全国的にも珍しく、札幌市でも初の夜の子育てサロンとなり、新聞やテレビ、本などのメディアにも取り上げられた。制度の中でできる事業として突破口となったことから、今後は、夜の子育てサロンの活動を多くの支援団体に知っていただき、他団体のロールモデルとなり、事業で得られたノウハウ等を水平展開することが目標である。</p>		<p>ひとり親の孤立を予防するために、仕事帰りにも立ち寄れる夜の居場所は、当事者支援として重要な取り組みであるが、自主事業として長く継続して実施するのは難しく、補助金制度を活用した事業として札幌市に認めてもらう必要があったため、本助成金を活用し、まずは自主事業として月1回夜の子育てサロンを実施しながら、市内の保育園、子育てサロンの利用者に夜の子育てサロンのニーズ調査結果をもとに、補助金事業として採用いただけるか検討していただきたいと要望を提出した。</p> <p>1年目の助成期間中の成果では、市の担当課から返答をもらえなかったが、2年目に市の担当職員が視察に来られ、ニーズ調査の結果と要望書を提出した結果、2019年4月より補助事業として指定され、補助金制度を活用した。市の補助金事業と認められたことで、他団体も夜の時間帯での子育てサロンを実施する場合も同じく市の補助事業として実施出来る様になった。この一連の自主事業から自治体の補助事業に指定になるまでの動きのノウハウは他のロールモデルとなり得る。</p>	<p>助成期間中の活動実績が認められ、札幌市の補助事業「地域子育て支援拠点事業 (ひろば型) 」として指定され、夜の子育てサロンを担当していたボランティアスタッフを、当法人の事務局スタッフとしての雇用形態に移行している。</p> <p>また、これまで携わっていたボランティアスタッフのなかには、継続してボランティアとして子育てサロンに携わっている方もおり、新人スタッフへの育成は、ボランティアスタッフが担当している。</p>	<p>この1年間の活動を通じて 活動実績が認められ地域子育て支援拠点事業 (市の補助事業) として指定されることを達成しました。</p> <p>■受益者の変化 (効果測定結果等)</p> <p>ひとり親の継続的な参加が4組あり交流を通して親交が深まり、スタッフや他の参加者に子育てや仕事の話などを気軽に相談する姿も見られている。夜の子育てサロンに参加していたシングルマザーの方から、人とのつながりの大切さや子育てを応援する社会的な活動に関心を持っていただき、来年、学習のための公的制度や奨学金を利用しながら、社会福祉士の資格を取得するのに大学進学を検討しているとスタッフに伝えられた。キャリアアップし、自らが今後は支える立場となりより、よい社会へと変えていこうとする親の変化がみられた。また、ひとり親の家庭の子が、仕事終わりの親と一緒に夜の子育てサロンに参加したことをきっかけに、当団体が実施している昼間の「子育てサロンにも遊びにくるようになり、親からは安心して日常的に参加させられるところまで来て助かった」という声がかかれ、子どもも1人で遊びに来て、他の子どもたちと交流し楽しんでいる様子が見られた。</p>	